



柏西ロータリークラブ

創立：1975年11月 7日
承認：1975年11月24日

四つのテスト

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるか？

第1711回 通常例会(2011.4.15)

会長：中村 佳弘 幹事：森市 直樹



地域を育み、大陸をつなぐ

■柏西ロータリークラブURL:<http://kashiwa-nishi-rc.com/>

■第2790地区ロータリークラブURL:<http://www.rid2790.jp/2010/>

通常例会

- 1. 点 鐘 中村 佳弘 会長
- 1. 会長挨拶 中村 佳弘 会長
- 1. 幹事報告 森市 直樹 幹事
- 1. 卓 話 長瀬 慈村 様
- 1. 卓 話 富澤 茂樹 様
- 1. 点 鐘 中村 佳弘 会長

千葉県薬剤師会の要請を受けて今回は柏から1名だけでしたが、行ってきました。食事は自分で持って行って寝る所は石巻高校の事務室だったそうです。仕事は薬の仕分けが1日残りは調剤をしたそうです。災害から1ヶ月でまだこれだけしか片づいていない。実際に見て本当にそ

の時はすごかったんだろうなと、とても悲しくなったそうです。ただこの災害はとても長くかかると思います。国のリーダーがいるんだかないんだかわからない時に我々が少しづつ協力していかなければならないと思います。私も機会があれば被災地に行くつもりでいます。

会長挨拶

中村 佳弘 会長



みなさんこんにちは！

本日は沼南ロータリークラブ会長の富沢様と柏地区医師会副会長の長瀬先生に来ていただきまして卓話をして頂きます。長瀬先生は、確かもう2回ほど被災地の方へ行ってボランティア活動をしたそうです。そのお話は後ほどして頂きます。実は私の1つ上の薬剤師が石巻の方へボランティアとして行きました。

幹事報告

森市 直樹 幹事

1. 例会変更のお知らせ

柏南RC：4/28（木）は4/24（日）地区協議会終了後の例会に変更

2. 受信《ロータリー情報研究会報告書》



- 例会日／金曜日 12:30～13:30
- 例会場／ザ・クレストホテル柏
〒277-0842 柏市末広町14-1
TEL.04-7146-1111 FAX.04-7146-2100

- 事務所／〒277-0011 柏市東上町7-18
柏商工会議所会館 505
TEL.04-7162-2323 FAX.04-7166-8282
E-mail:kashiwanishi@io.ocn.ne.jp

卓話

日本医師会災害医療チーム (JMAT) 柏市医師会
長瀬 慈村 様

東北関東大震災における災害支援活動報告 (第1報)

東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

東北地方太平洋沖地震による大災害において平成23年3月18日より21日までJMATとして岩手県釜石で行った災害支援活動について報告致します。

柏市医師会では、医師2名 (外科、内科)、看護師1名、眼科検査技師1名、事務職員1名、計5名のチームを結成し、千葉県医師会より日本医師会に申請、岩手県釜石を拠点として、大槌町、鶴住居町、箱崎町において災害支援活動をしてまいりました。同地区の津波は15メートルを超え、町の大半が全壊、死傷者、行方不明者の数は多く、被災者は点在する避難所や高台の集落を中心に過酷な生活を強いられていました。我々が被災地に入った時点で、大槌町では約5500名の避難者が確認されていましたが、鶴住居町外山地区と箱崎町全域ではその詳細は不明でした。各避難所には自衛隊による食料、水等の支援物資はある程度届いているものの、電気、水道、ガス、通信などのライフラインは寸断されており、燃料の供給も極少なく、衛生状態も不良でした。市街地以外の避難所や集落では、孤立状態で医療支援の届いていないところもありました。

支援内容としては、被災地病院、診療所の診療支援、避難所

や救護所における医療支援ですが、柏市民を中心とした寄附品 (衣類や食料など) を持参し、生活面、精神面での支援も行いました。実際の持参資器材は、医薬品：抗生剤・抗ウイルス剤、降圧剤、喘息治療薬、胃薬、風邪薬、下剤、止痢剤、眠剤・安定剤、解熱鎮痛剤、湿布薬、消毒薬、ワンデイ・コンタクトレンズ、コンタクト洗浄液など、食料品：米60Kg、おかゆ (レトルト) 200食、缶詰、カップ麺、パック餅、菓子類など、柏市行政、および、主に柏市民よりの寄附の品々、衣類：ジャンパー、コート、セーター等の防寒具、下着 (新品)、靴下、その他、生活必需品：タオル、ドライシャンプー、使い捨てカイロ、紙おむつ (大人用、乳児用)、生理用品、洗浄シート、ウェットティッシュ、歯ブラシ、歯磨きガム、など柏市行政、および、主に柏市民よりの寄附の品々、です。

なお、隊員の衣食住は自前で確保、知人の好意によりキャンピングカーを無償借用し、緊急車両の手続きを取り、高速道を利用し現地に入りました。燃料は高速の給油所にて補給、現地では出発前に調達した燃料を携帯し用いました。

(実際の活動) 19日は、大槌町で活動。かみよ稲穂館 (140数名) とケアプラザ大槌 (240余名) にて、診察、処方、メンタルケアを行いました。20日は、鶴住居町外山地区 (標高400mに

ある孤立した集落、住民と被災者50余名) と箱崎町全域 (四つの集落に分かれ、住民と被災者40~80名ずつ存在) を巡回し、診察と処方を行いました。不眠や便秘の訴え多く、大惨事に対する恐怖と不安 (現時点ではまだ触れたくないと黙している方が大半)、将来の見えない現状での困惑と無力感、大勢の人と身を寄せ合っただけの共同生活におけるストレス (特にトイレが少ないために食事や飲水を押さえる方も多い) などが原因と考えられました。風と乾燥により花粉症の訴え多く、高血圧や糖尿病、甲状腺機能亢進症等の患者では津波に流されて薬なく困窮。手洗い様の水なく、仮設トイレも徐々に使用不能となり、衛生状態は悪化、下肢の蜂窩織炎が2名おり、点滴と処置を指示。物品の流通し始めた釜石市街地より遠く、外部からの物資供給を待つしかない状況でした。柏市民が寄附された食料品や衣類を差し上げましたが、女性の下着や靴下、生理用品、ドライシャンプーなどが好評でした。被災者は「家も車も家族も仕事もすべて流されてしまった」と。

(まとめ) 大災害時の医療支援は、発生よりの経過時期でその方法が異なります。被災後3~5日まではトリアージを主とした救命救急医療、ライフラインが復旧され安定する3~4週間以降では慢性疾患の再コントロールと心のケアを主とした医療となりますが、その間は両者のまたがる時期です。この時期は、支援体制も災害内容や経過、地理的要素、社会情勢によっても在り方が微妙に異なるため整備が不完全で、単純に医療だけを

支援すればよいわけではありません。本来なら行政とともに活動し対応できればよいのですが行政側にも犠牲者が多く時間が必要です。さらに規模の違う避難所の被災者、孤立した集落にいる被災者等によっても、必要な物資や支援方法の違いがあり、この点を考慮して今後の災害対策を考える必要があります。また、ボランティアに入る側も安易な気持ちで現地に入ることなく、そこに住む方々の身になって行動し、少なくともこの時期は自分たちの寝食や燃料を自前で確保し、二次災害に遭わないように注意が必要です。まもなく現地の被災者でもある医療者の体力と気力にも限界が来るとわれ、継続性のある中期的災害支援が不可欠です。被災地域の復興のために、この危機をみんなで協力し合って乗り切り、以前よりも良い社会環境を創りあげることが望まれます。

今回の災害支援活動に際してご支援ご寄付を頂いた、多くの柏市民の皆様、心より感謝申し上げます。

(平成23年3月27日、合掌)

東北関東大震災における災害支援活動報告（第2報）

東北関東大震災における第2回災害支援活動について報告致します。

平成23年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震が発生し、家屋倒壊や地盤沈下、津波や火災、原子力発電所の損壊など、東北地方を中心に大きな被害をもたらし、現在、死者・行方不明者は2万7千人を越えております。

柏市医師会では、第1回災害支援活動を通じ、今後の医療復興支援の可能性について議論を重ねました。初期の救命救急を主とした医療支援、その後に生じる医療スタッフと医薬品不足時の支援を経て、ライフラインが復旧され安定する時期が来ると多くの医療支援チームは撤収しますが、そこからが大変な時期になると想定されます。支援側医師会という立場で継続的支援を行う際に重要なことは、現地医師会の先生が住民の健康を守るための日常診療を以前のように可能となるまで、公的に筋道を通した上で補助として支え続けることだと思われまます。従ってできれば復興にあたって、医師会の先生の開業再開を継続して中長期的に、共通理解を持った一定の地域の医師やコメディカル等が顔の見える形で支援活動にあたるのが良いのではないかと考えに至りました。

第1回の活動により、被災現地の思いと支援側がしようとするには少なからずれのあふることを感じており、今回は、4月6日より3日間、前回活動地域と現地医師会の現状および今後の医療復興支援の可能性についての調査を目的として活動しました。

今回のメンバーは、私と眼科検査技師は前回と同様、医師会理事（外科医）、看護師1名、MSW1名の計5名で、借用したキャンピングカーで高速を利用、燃料はサービスエリアと市内の給油所で補給し活動しました。前回、開いていた釜石病院隣の給油所は、緊急車両優先の方針に対して地域住民の抗議の末、閉店したとのこと、疑問を

感じながらも一度提供を受けたことに後悔。現地の医薬品は充足しているとの情報より最小限度に押さえ、前回積みきれなかった、柏市行政や柏市民からの食料品、衣類、靴、小児の衣服や玩具に絵本、ドライシャンプー、ウェットティッシュ、歯ブラシなど寄附の品々を持参しました。

(実際の活動) 今回訪問したのは、大槌町の一部と箱崎町で、鶴住居町外山地区は最終日午前予定するも予震の影響ため断念。大槌町の瓦礫撤去作業はだいぶ進み、鶴住居町も徐々に行われている様子も、箱崎町については前回とほぼ変わらずの状態でした。大きな避難所では、自衛隊による様々な物品の支給があり、物品や医療については充足され、トイレの衛生面も改善、被災者は移動により減少、多くの方は今後の生活を取り戻すために出かけており、落ち着いた雰囲気となっていました。今後の生活が見えないため不安を抱えている方が多いも、支え合いながら何とか頑張っているとのことでした。集落でも、物資、医療ともに足りているとのことで、医療以外のことをお聞きしたところ、生まれ育ったこの地で今後も住みたいという希望はあるが、被災後4週間となってもまだ、瓦礫撤去作業は開始されず、だんだん気力が失われていくと、住民男性。住民女性からは、花粉と瓦礫よりの粉塵で目がかゆく喉はイガイガする、また情報はラジオと噂だけで不安、岩手日報がほしいが新聞屋さん一家も流されてしまったとのこと。

(まとめ) 被災後1ヵ月となり、町は一見平静を取り戻し、

食料や燃料、医薬品などの物資も充足、医療支援も不要との声もありますが、現在でも、ライフライン復旧予定の立っていない地域も多く、回復した地域でも大きな予震が起こると停電（実際に8日は、東北3県全域で停電し、信号機はつかず、給油所は閉店、お店も暗がりて営業、冷凍食品は破棄された）が生じます。医療面では、現地の医療者の使命感と献身的努力、災害医療チームの昼夜を問わぬ働きにより急性疾患への対応と慢性疾患のコントロールがなされ落ち着きを取り戻してきているも、心のケアはいまひとつで、特に子どもたちについては現状把握もできていない様子。現地の保健師とともに行動する

か、継続した支援活動、あるいは日常会話の中から症状やニーズを拾い上げる必要があると思われれます。また今後は、整形外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科等の対処や、衛生面や生活面の改善による疾病予防も重要となり、多科、多職種の協力が必要です。国、県、郡市、それぞれのレベルにおいて、現在の問題点と実際に必要な対策についての認識が、行政、医師会、一般人とにもずれがあり（現地の経時的変化によるニーズと支援側の思いの違い、日常と災害時の行政対応の在り方を理解できる現地スタッフの不足、国や県と郡市レベルでの状況把握の違いと対策の優先順位における温度差、な

ど）、医療に限らず、全体を把握、決断できる立場と目を持つ人間がコントロールしていく必要があるように感じました。

今回私たちは、支援側にいますが、いつ被災者側になるかは分かりません。できれば釜石医師会と柏市医師会は友好関係を結び、今後の実践的かつ効率的な災害対策につなぐことが望まれます。（平成23年4月10日、合掌）



卓話

沼南ロータリー・クラブ 会長
富澤茂樹 様

「決議23-34」について（レジュメ）

ロータリーは、1905（明治38）年に相互扶助と親睦を目的として異業種の4人があつまってスタート、翌年にはロータリアン同志の利益だけでなく、地域社会の役に立つことをしたいという社会奉仕の理想に目覚め、その第1号はシカゴの公衆便所設置でした。

その数年後の1912（明治45）年頃、アメリカ国内で身体障害児問題（小児麻痺）が多発して、大きな社会問題になりました。この時、人道的情熱に燃えたエドガー・アレン氏（オハイ

オ州エリリアR.C.）は近隣のR.C.にも障害児救済問題を呼びかけ、1922年の第14回ロサンゼルス国際大会に、エリリア、トレド、クリーブランドの3R.C.が共同提案で障害児問題を各クラブの地域社会における奉仕として認識をさせる決議をしました。

このような行動派の決議に対して、理論派は、この決議はロータリーの本質に関わる問題だとして、ロータリー活動の奉仕は個人奉仕なのか、或いは団体奉仕なのかを巡って大論争となり、全米を巻き込んで大波乱となりました。理論派は、「ロータリーは職業上の問題に力を注ぐべきであり、社会問題については広く関心を寄せるだけで事足りる。ロータリーは個人奉仕が主体であり、本来の面目が失われることは避けなけれ

ばならない。クラブはそれぞれ独立の存在で、自治権を持っている。」と主張しました。ロータリーは、大波乱状態に陥り、空中分解寸前でした。

この時、突如として救世主が現れました。

1923（大正12）年、ミズーリ州セントルイスで開催された第14回国際大会において、テネシー州ナッシュビルR.C.が提出した第34号議案が大論争の回答として受け入れられました。これが「決議23-34」で、理論派と行動派の主張をうまく噛み合わせて、分裂を回避、大論争に終止符を打ちました。

「決議23-34」は、R.I.とクラブとロータリアンの機能を明確化しました。

・「ロータリーの綱領」はロータリアン自身に対する目標設定とし

・「決議23-34」は、主にクラブを大正にしました。その内容の6項目のうち、特に、下記の2項目は重要であると思います。

第1項：ロータリーは一つの人生哲学で「超我の奉仕」の哲学である。

第5項：ロータリー・クラブは、その地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶ絶対的な権利を持っている。



その他

みくに幼稚園（杉山会員）



2月22日台中港東南クラブとの姉妹締結30周年公式訪問の際のお土産の地球儀を園児のために寄贈頂きました。



- ★ パートナー誕生日
中嶋 会員、染谷 会員
- ★ 熊本へ異動になりました
渡邊(雅) 会員
- ★ 長瀬先生、富沢様ようこそ
お越しくございました
安川 会員
- ★ 地球儀ありがとう
杉山 会員

今日のお料理



出席報告

会員数	55名
欠席者	12名
秋元、秋山、小澤、勝田、佐藤 椎根、高田、日暮(誠)、富士川 湯浅、渡邊(治)、小溝	
出席率	75.51%

★ 次回の例会は5月6日(金)夜間例会です。

クラブ会報委員／東海林 康之・田代 健一・後藤 浩一郎

欠席報告は、水曜日の正午まで

※食事の無駄をなくす為に協力して下さい。
嶋田 英明まで:090-2232-1661